

昭和6年4月より昭和12年9月に至る6年6ヶ月間に、當教室に於て經驗したる子宮外妊娠の總數は60例にして、同期間内に於ける妊婦11105名に對し60例にて0.54%、又入院分娩總數4152例に對しては1.44%なりき。而してその殆ど全部は卵管妊娠にして、8例即ち13.3%の多きに於て反復子宮外妊娠を見たり。來院時既に出血甚だしくして脈搏不整、しばしば結滯を見たる卵管破裂の1例を除きては豫後は甚だ良好なるを知れり。

猶年齢、季節、既往分娩及び妊娠、既往疾患、合併症、最終月經、治療等に關し觀察し得たるところを述べんとす。

27. 正常分娩主として分娩持續時間の統計的觀察

東京女子醫學專門學校産婦人科教室

吉 岡 薫
吉 田 貞

余等は最近1年半に於ける當教室入院分娩患者1339名中確實に正常分娩を遂げし1037名につき分娩持續時間に關して統計的觀察をなしたり。

分娩持續時間は之を總分娩持續時間、第1期(陣痛開始より破水まで)、第2期(破水より胎兒娩出まで)、第3期(胎兒娩出より胎盤娩出まで)の各期を調査項目となしたり。

上記の各期の統計と共に分娩持續時間が分娩時諸要約統計中、母體の年齢、分娩回数、軟部産道(會陰破裂の有無による)、胎兒性別等との關係、其他臍帶脱落との關係、季節的關係につき調査したり。

28. 骨盤側結合線に就て

泉橋慈善病院産婦人科

北 川 國 子

骨盤側結合線即ち、同側の腸骨前上棘と腸骨後上棘との間の距離の計測を行ひ、之が正常價、身長との關係並びに外結合線と如何なる關係を有するやに就て統計的觀察を行ひ、亦之が骨盤外計測上如何なる意義を有するやに就て述べんとす。

29. 妊婦に發する常位胎盤早期剝離の原因的觀察

泉橋慈善病院産婦人科

町 田 綾 子

泉橋慈善病院に於て、最近3年間に於ける常位胎盤早期剝離の28例につき臨牀的及び病理解剖上より、その原因を觀察せり。その中單に外力的作用のみに由りて起れりと思はるゝもの1例あり、その他は總べて1%以上の蛋白尿及び圓柱尿、白血球、上皮細胞あり、而も14例は尿中赤血球少く、血壓上昇も比較的少い「ネフローゼ」に近き型を示し、他の4例は尿中多數の赤血球と著しき血壓上昇を認め、所謂妊娠腎炎を思はせるものとあり。21例に就て開腹手術を行へるが大多數に於て子宮筋内より漿膜下に出血を認め、甚だしきは血性腹水を認めたるもの2—3あり。その他氣管枝炎にて強き咳嗽に由り剝離を來したるもの1例と、又高度の妊娠腎に由り、分娩誘導の爲めに「ブージー」送入に由り、比較的廣汎な出血を來したるもの1例とあり。然し實は是等は妊娠中毒症に由りて起れるものにして、之等機械的作用は偶然の誘因に過ぎないのである。

子癩患者2名、妊娠腎2名、常位胎盤早期剝離3名につき剖檢するに、各々妊娠中毒症に特有なる所見を呈せり。然し各々については、特異なる所見を認むる事能はざりき。

以上臨牀的及び剖檢所見より諸家の信ずるが如く、常位胎盤早期剝離が妊娠中毒症の存在に由りて起るは疑ふ餘地なく、その際得た毒素が主として小及び細小血管更に總べての毛細血管に作用し、尙更に普通の場合に於ては、何等の影響を受けない様な外力が加はる場合には胎盤附着部に作用し、その結果出血を來すのである。

30. 月經症狀に就て

東京女子醫學專門學校産婦人科教室

東京女子醫學專門學校衛生學教室

大 村 久 榮

余は東京女子醫學專門學校生徒に就て、昭和6年4月より昭和9年3月までの月經狀態を調査せり、而して其の一般的總括は昨秋第3回東京女醫學會總會に於て既に報告したるを以て今回は特に月經症狀の詳細なる調査をして次の如く別ちたり。即ち

- 1) 月經症狀を訴ふるものと訴へざるもの
- 2) 月經症狀を各月に別ちたるもの
- 3) 月經症狀を年次に別ちたるもの
- 4) 月經症狀を寄宿生通學生に別ちたるもの
- 5) 月經症狀の如何なる症狀が月經第何日に來るか